

基本方針	「サプライチェーン ロジスティクス プロバイダーとして、 新領域事業への挑戦とコア事業の深耕化を図るとともに、 ESG経営に取り組む」		
	コア事業の深耕化	ESG経営	新領域事業
重点施策	<ul style="list-style-type: none"> ● 事業ポートフォリオ戦略の推進 ● DXの推進 ● 新領域事業の創出 ● ESG経営の推進 		
期間	<p>フェーズ1 2023/3期～2024/3期 (22年4月～24年3月)</p> <p>フェーズ2 2025/3期～2027/3期 (24年4月～27年3月)</p>		

物流環境変化の中で営業効率を上げ、中計期初に掲げた営業利益達成を目指す

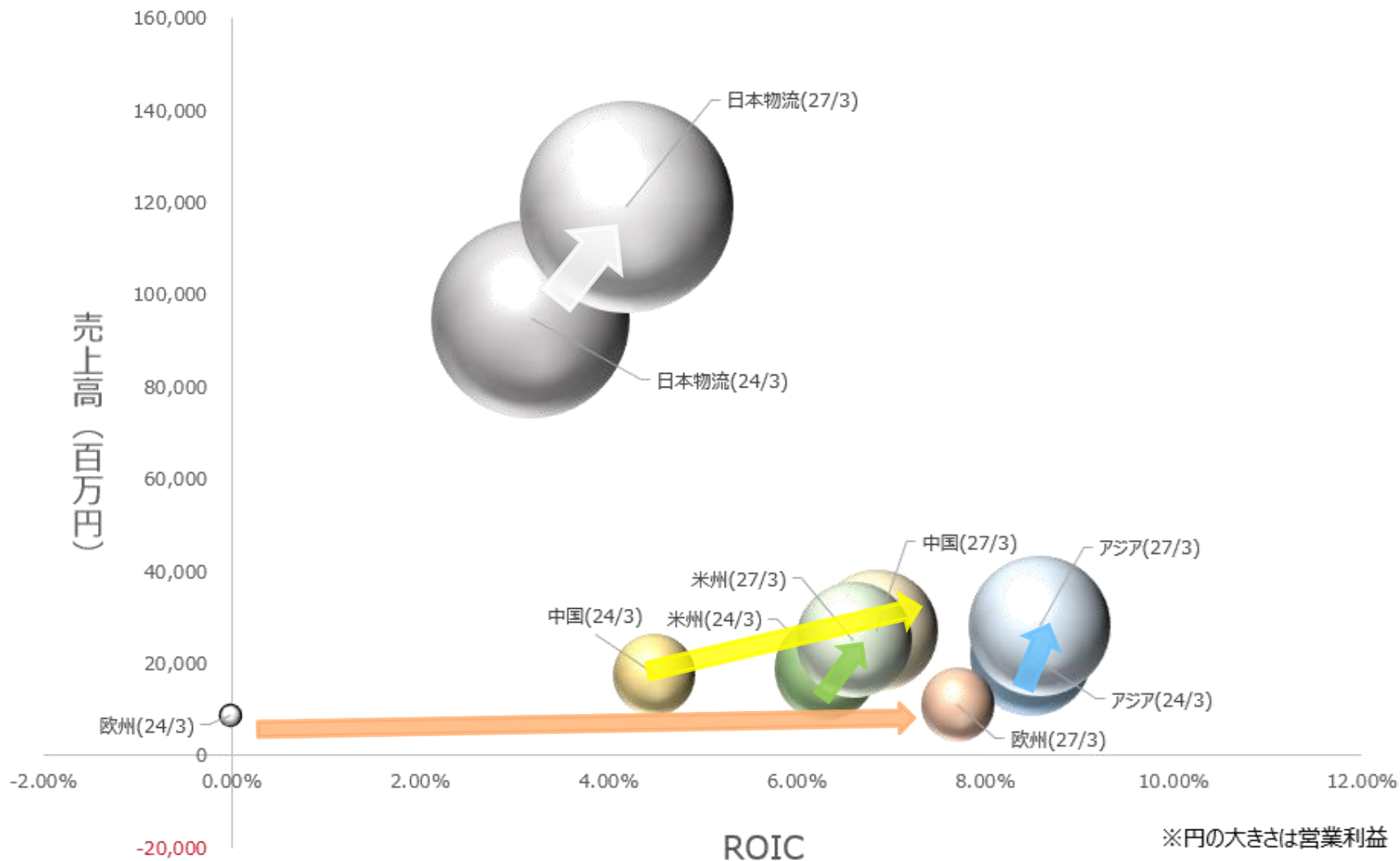
収支目標

単位：百万円

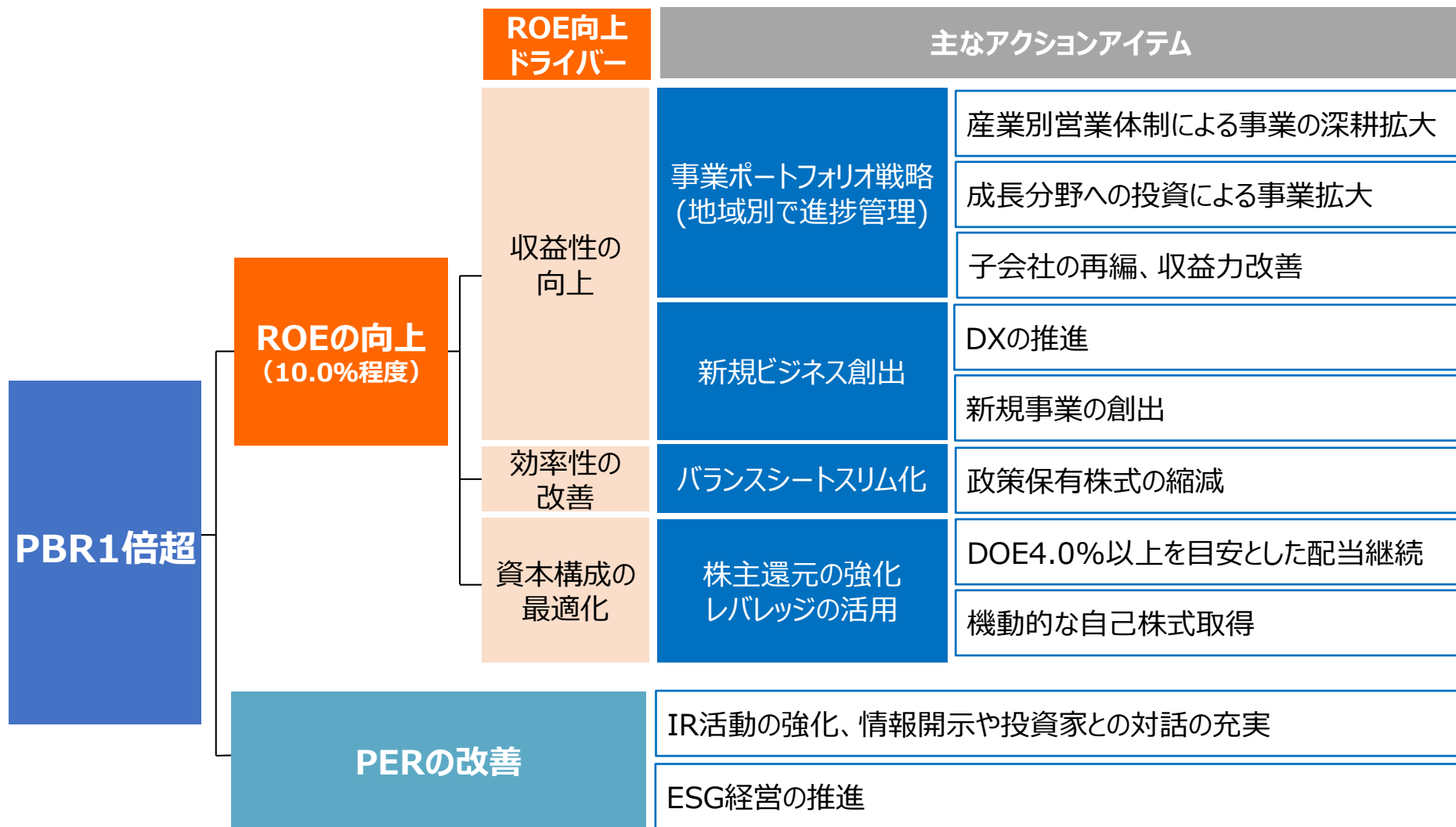
	22/3期 実績	24/3期 実績	27/3期 目標
売上高	192,699	169,934	220,000
営業利益	9,098	8,073	11,000
経常利益	9,859	9,463	11,500
当期純利益	6,365	8,649	9,800
ROE	9.4%	9.7%	10.0%程度
			※為替レート 1ドル=145円
営業利益率	4.7%	4.8%	5.0%

		数値目標		フェーズ2 計画
		24/3期 実績	27/3期 目標	
		上段：売上高		
		下段：営業利益		
物流	日本	947億円	1,190億円	<ul style="list-style-type: none"> 成長分野への投資による事業拡大（神戸、北海道等） 半導体（高圧ガス）、LIB（EV電池）関連事業の拡大 神奈川埠頭倉庫、北関東ロジスティクスセンターの本格稼働
		36億円	43億円	
	米州	188億円	250億円	<ul style="list-style-type: none"> EMG※サービス顧客の拡大 ※End to End Management Group（物流サプライチェーン可視化サービス） 蓄電池関連貨物の取り扱い拡大 地場営業の強化
		9億円	12億円	
	欧州	86億円	110億円	<ul style="list-style-type: none"> 倉庫事業の強化（ポーランド） 新規事業（食品、機械設備）の取り扱い拡大
		△0億円	5億円	
	アジア	216億円	280億円	<ul style="list-style-type: none"> 国内輸送事業の強化（インド） 倉庫事業の拡大（インドネシア）
		13億円	19億円	
	中国	175億円	270億円	<ul style="list-style-type: none"> 連結子会社化した中外運日新の収益拡大 非日系企業への営業拡大
		6億円	14億円	
旅行		70億円	80億円	<ul style="list-style-type: none"> 団体旅行の取り扱い増加
		5億円	5億円	
不動産		13億円	20億円	<ul style="list-style-type: none"> 京浜地区等の賃貸不動産の収益化
		8億円	12億円	

各地域の収益、資本効率の向上を目指す

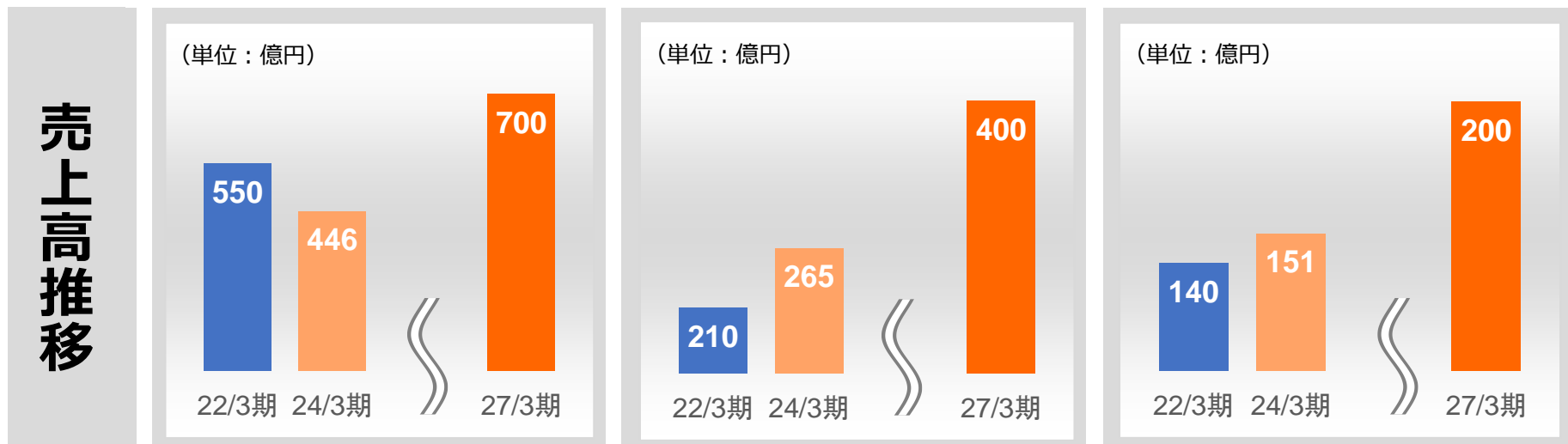


成長投資と新規事業の拡大、資本効率の向上により、PBR1倍超を目指す



7次中計(NN7) 産業別営業体制による事業の深耕拡大 日新

	自動車関連物流	化学品・危険品物流	食品物流
フェーズ 1	北関東ロジスティクスセンター 着工	神奈川埠頭倉庫 営業開始	既存施設の最適稼働 利益率向上
フェーズ 2	北関東ロジスティクスセンター 竣工、営業開始	神奈川埠頭倉庫 安定収益確保	海外 低温物流サービス拡充
	EV関連物流新規開拓	新倉庫建設、営業開始 (神戸、北海道)	関連施設拡充
	関連施設拡充	関連施設拡充	



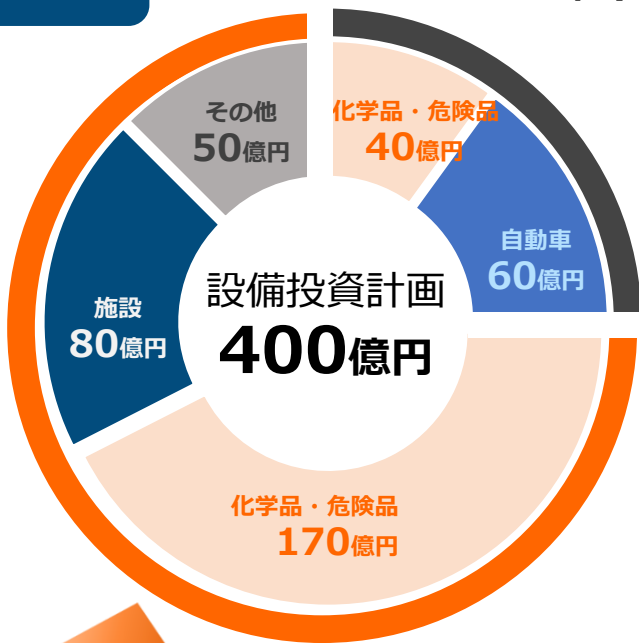
※ グラフは社内集計値にて作成

コア事業を中心に成長分野への投資を加速し、事業拡大を図る

7次中計期間
23.3期~27.3期

フェーズ1
100億円

フェーズ1 成果

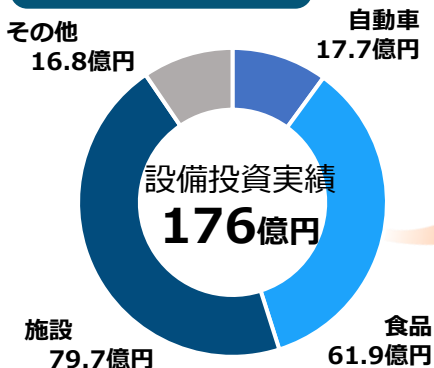


成長分野への投資

化学品・危険品：神奈川埠頭倉庫
23年9月営業開始

自動車：北関東ロジスティクスセンター
24年11月営業開始予定
：インド日新トラック購入

6次中計期間
18.3期~22.3期



フェーズ2
300億円

フェーズ2 取り組み

新規設備投資案件の安定的な収益確保
(神奈川・北関東)

成長分野への更なる投資

化学品・危険品：神戸、北海道
施設：国内・海外施設関連
その他：IT・DX・ESG・M&A・人材開発

※ グラフは社内集計値にて作成

事業モデルや業務オペレーションを変革し、新たな利益を生み出す

フェーズ1 成果

DXの推進

Forward ONE

- デジタルフォワーディングサービス
「Forward ONE」新機能追加
- リターナブルケースサービス
「HACO Lab.(ハコラボ)」にてパートナー企業と協業し医薬品輸送サービスを展開



新規事業の創出



- リチウムイオン電池 (LIB) の動脈・静脈物流ソリューションサービス開発
- 新規事業提案制度開始

フェーズ2 取り組み

DXの推進

- 「Forward ONE」サービス拡充で収益拡大
- 「HACO Lab.」新サービスの展開及び顧客開拓の拡大

新規事業の創出

- リチウムイオン電池専用容器を活用した静脈物流サービスの収益化
- 顧客ニーズにあった新しい物流関連事業の創出

株主還元の充実化と資本効率化を進める

資本政策

(1)株主還元方針

配当指標 : DOE (株主資本配当率) 2.0%以上 ⇒4.0%以上を目安
 自己株式取得 : 2026年度までに100億円程度 ⇒160億円程度
 自己株式消却 : 発行済株式総数の5%を超える部分は原則每期消却

(2)政策保有株式の縮減

2026年度までに約200億円の縮減を目指す

資本政策 進捗

自己株式取得

2023年度
約**20億円**取得済

2024年度
140億円程度取得

NN7期間中合計
160億円程度

政策保有株式
の縮減

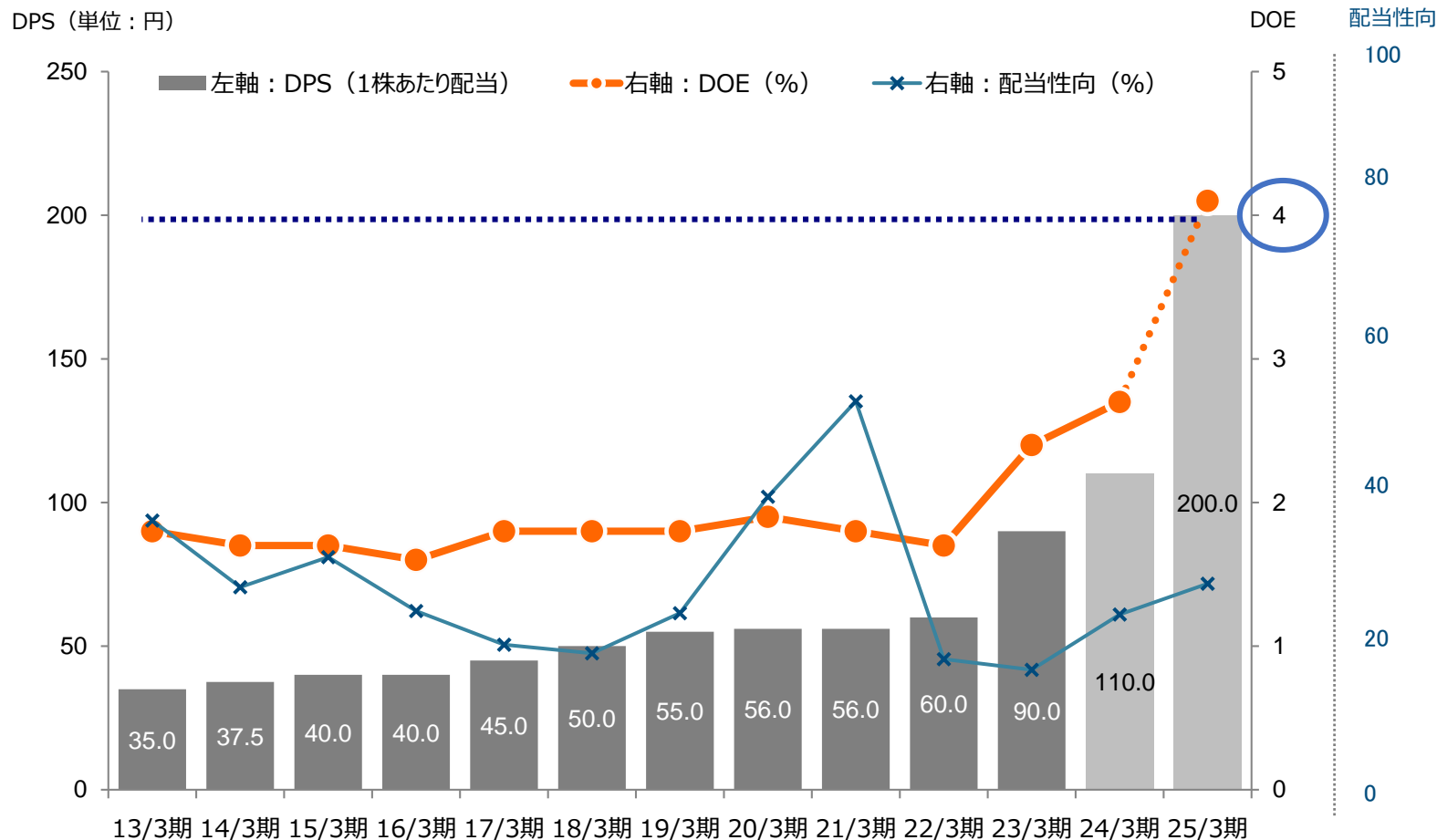
2023年度
約**80億円**縮減済

~2026年度
120億円縮減予定

NN7期間中合計
約200億円予定

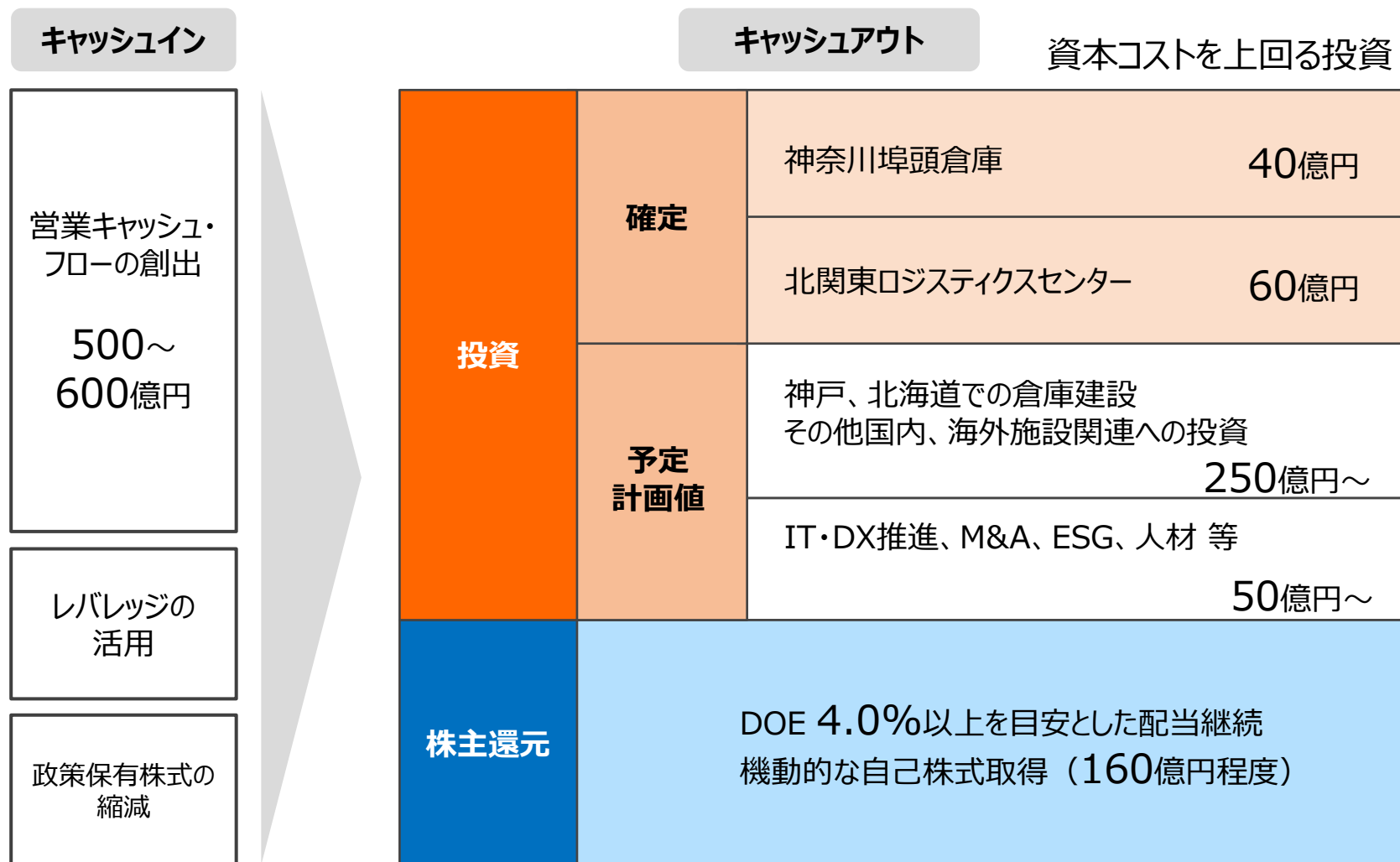
昨年11月取得した信用格付けA-(R&I社)のもと適切な資本政策を実施、財務健全性を維持

安定配当の継続、株主還元の充実化



※ 2017年10月1日を効力発生日として普通株式5株につき1株の割合をもって株式併合を実施し、株式併合を考慮した金額を記載

営業キャッシュ・フロー(500~600億円)を創出し成長投資と株主還元を実施



成長投資と新規事業の拡大、資本効率の向上により、PBR1倍超を目指す

NN7 フェーズ2 2027/3期末 目標

売上高
2,200億円

営業利益
110億円

純利益
98億円

ROE
10.0%程度

投資計画

設備投資 **350**億円~
その他 **50**億円~

株主還元

DOE4.0% 以上を目安
自己株式取得 **160**億円程度

PBR 1.0倍超の早期実現

GHG排出量削減と人的資本経営をコア課題とし、着実に推進

重要テーマ

主な取り組み・指標

自然資本 【地球】	GHG排出量の削減 (Scope 1, 2)	
	単体 削減目標 42.0% (2030年度) (2020年度基準値 14,634t-co2)	単体 削減実績 25.0% (計画値12.6%) (2023年度見込 約10,900t-co2)
	連結 削減目標を策定中 (2024年6月開示予定)	
	省エネ・創エネ	再エネの導入・拡大
人的資本 【人】	省エネ：省エネ法 事業クラス分け評価制度 - 9年連続優良事業者 Sクラス (最上位)	再エネ導入率 (単体)
	創エネ：新規2拠点に太陽光パネル設置 - 神奈川埠頭倉庫 (神奈川県横浜市) 設置済 - 北関東ロジスティクスセンター (栃木県芳賀町) 設置予定	14.7% (2022年度)
	人的資本経営	ダイバーシティ
	従業員向け譲渡制限付株式インセンティブ制度 (RS) の導入	女性管理職比率 9.4% (2024年4月)
	社員エンゲージメントと経営への参画意識の向上	中途採用比率 31.2% (2023年度)